令和 6 年能登半島地震における救護班第 3 班の活動

薬剤部　塚田 加奈子

活動期間：2024 年 1 月 12 日（金）～16 日（火）
派遣場所：大屋小学校（石川県輪島市）

【背景】

2024 年 1 月 1 日に 16 時 10 分、石川県能登地方を震源とした最大震度 7 の地震が発生しました。第 3 班が派遣される前日 1 月 11 日の被害状況として死者 213 名、負傷者 524 名、家屋倒壊 3877 棟と甚大な被害がでました。避難所は石川県だけでも 400 箇所を超え、24038 人の方が避難されている状況です。断水による衛生環境の悪化から感染症の発症も予想され、医療支援及び衛生環境の整備が必要と推察されました。

【活動内容】

医師 1 名、看護師 3 名、薬剤師 1 名、主事 5 名で派遣され、1 月 13 日の午後～1 月 15 日の午前まで、輪島市の避難所の 1 つである大屋小学校で診療・避難所アセスメントを実施しました。避難者は約 200 名であり、輪島市全土で断水となっていたものの自治体や自衛隊の派遣により給水車や仮設トイレ、シャワー等が設置され、食料・衣類・日用品等の物資は比較的充足していたと思われます。災害時感染制御支援チーム(DICT)の介入もあり、COVID-19 やインフルエンザに感染された方は家族ぐるみで隔離されていました。救護所では 3 日間で計 40 人を診察。発熱症状のみられた 29 人に検査を行ったところ、8 人が COVID-19 陽性であり、居住区の隔離や隔離期間の通知/生活上の注意点について患者および家族に説明しました。また下痢症状のみられた 1 人はノロウイルス陽性であり、次亜塩素酸による消毒・他の避難者の方と使用するトイレを分ける・居住区の隔離を実施しました。全体的に解熱剤・鎮咳薬の処方が目立ちましたが、中には常用薬が切れるため処方を希望される方もおられ、地域の薬局と連携して対応にあたったケースもありました。

【派遣に際して】

今回初めて救護班として派遣になったメンバーも多かったですが、コーディネーターチームの指示の下、チームメンバーで互いに協力し相談し合いながら任務を遂行しました。また派遣に際し通常業務の調整や活動中に生かせる情報の収集/データ共有など後方支援にも心から支えられました。現地で私たちが活動できた時間はごくわずかで、今後も継続的な支援が必要ですが、少しでも被災された方の力になっていれば幸いです。また一刻も早い復興を心より願っています。